《別添》

令和7年5月31日
第1回防災活動意見交換会

防犯防災部長あいさつ

土曜日の貴重なお時間に本会議に参加をいただき、誠にありがとうございます。

今年度、当会防犯防災部長に再任されました、手賀の杜の住民である古山（ふるやま）と申します。本日の会議進行を務めますので、何卒ご協力をお願いします。

今から11年ほど前、私は手賀の杜自治会で自治会長に就任し、その年（3.11の2年後）に初めて、同自治会で防災訓練を避難所である県立沼南高校にて実施しました。並行して、当会の理事として、この地域の防災活動にも携わりましたが、その際に調査した結果、当時は全体の約3割程度の団体しか防災訓練を実施しておらず、それもほとんどが、集合住宅での火災予防訓練を防災訓練と称して行う程度で、全住民を対象とした住民安否確認や避難所移動の訓練を実施するのは、手賀の杜自治会くらいであったと記憶しています。

当時、私の前任である当会防犯防災部長の、現牧野会長主導の下で、この風早北部地域でも、翌年から一斉防災訓練が始まりました。その後コロナ禍もあって一時的に訓練は中止を余儀なくされたわけですが、昨年度はコロナ禍開けで久々に、多くの学校避難所での住民参加型訓練が執り行われ、結果として、衆議院議員選挙日と重なったことで大津ヶ丘第一小学校が、また期末考査直前のため、学校使用が急遽キャンセルとなった県立沼南高校以外の計5カ所での訓練が実施されました。

本日の会議でも予定しています、南海トラフ大地震発生への警戒の聲が高まりを示す中、当柏市には津波被害もほぼないため、地震による直接の被災はそれほど多くないとの推察がされる一方、日本の大動脈の損壊で、物流がほぼ長期間停滞することは必至とされ、よって

《別添》

物資が私たちの周辺では枯渇する事態が確実に迫ることになります。

日々の備えなくしては、まっとうな生活が困難となることが容易に推定され、そのための住民参加による定期的な防災訓練は欠かせないものと痛切に感じておりますので、本日から始まります会議で得られた知見を是非、各地域団体内での防災活動に繋げていただくよう、心からお願い申し上げます。

風早北部地域ふるさと協議会
防犯防災部長 古山博之